

国際資源パネル（IRP）G7 統合報告書 政策決定者向け要約

「資源効率性：潜在力及び経済的意味」概要

【ヘッドラインメッセージ】

協調行動による資源効率性向上のポテンシャルは著しく、経済及び環境に多大な便益をもたらす。

【5つのキーマッセージ】

1. 環境保護と開発を両立させる持続可能な開発目標（SDGs）を達成するためには、資源効率性の大幅な増加が不可欠である。

資源の利用は人類の繁栄の中心を成すものであり、SDGsの全17目標のうち、12の目標は、経済全体におけるあらゆる種類の天然資源の持続的な管理に依存する目標である。SDGsにより描かれた「我々の望む未来」を実現するためには、人間開発とこれを環境保護とバランスさせるのに不可欠な資源安全保障を提供する資源効率性の向上は決定的に重要である。

2. 気候変動目標をコスト効率良く達成するには、資源効率性の向上が不可欠である。

資源効率性は、CO₂及びそれ以外の温室効果ガス（GHGs）の排出を大幅に削減し、多くの低炭素技術に必要な物質利用量の増加によるデメリットを低減し得る。資源効率性の大幅な向上なくしては、平均気温の上昇レベルを2°Cより十分に低く抑えることは難しく、大幅にコスト高となる。

3. 資源効率性は経済成長と雇用創出の促進に貢献し得る。

資源効率性の増加が経済成長と雇用の促進につながる有力な証拠がある。イノベーションと技術変化の速度と方向性の変革、合理的な規制、適切なインフラ投資、環境税改革、財政政策の戦略的活用、持続可能な公共調達により資源効率に関する障壁を乗り越える必要がある。資源効率性の向上に関する目標を設定し、その進捗をモニタリングすべきである。

4. 多くの分野において資源効率性を向上する機会が存在する。

多くの分野において大幅な資源効率の向上の機会が存在し、発展途上国にはさらにインフラ設計と発展の道筋を最初から資源効率的なものにする機会がある。本報告書で行った新たなモデル分析により、資源効率性と気候政策の統合が、所得と経済成長を増加させつつ、世界の資源使用量を2050年まで現状のレベルに抑え得ることが分かった。

5. 資源効率性の向上は実際に達成可能である。

世界中のさまざまな発展段階において、さまざまな部門や経済活動の資源効率性を向上する非常に多くの例がある。政策決定者にとっての課題は、優良事例から学び、それらをスケールアップすること、そして、各国の状況に適した臨機応変な政策を実行することである。